



4 運用・保守 編

本装置の運用および保守について説明します。

日常の保守(→200ページ)	本装置を日常使う上で確認しなければならない点やファイルの管理、クリーニングの方法について説明します。
システム診断(→204ページ)	本装置専用の診断ユーティリティの使い方について説明します。
障害時の対処(→207ページ)	故障かな?と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。
オフライン保守ユーティリティ(→242ページ)	本装置専用の保守ユーティリティの使い方について説明します。
移動と保管(→244ページ)	本装置を移動・保管する際の手順にや注意事項について説明します。
ユーザーサポート(→245ページ)	本装置に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスはNECおよびNECが認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

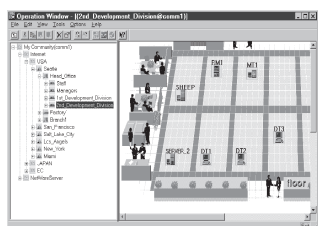
日常の保守

本装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

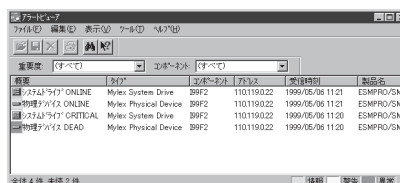
ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



データビューア



アラートビューア

バックアップ

定期的に本装置のハードディスク内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。本装置に最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお問い合わせください。

クリーニング

本装置を良い状態に保つために本装置を定期的にクリーニングしてください。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-ROMドライブの内部をのぞかない
- リチウム電池を取り外さない
- プラグを差したまま取り扱わない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

高温注意

本体のクリーニング

本装置の外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本装置背面のコネクタ、本装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本装置の電源がOFF (POWERランプ消灯) になっていることを確認する。
2. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 本装置の汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布で水気をふき取る。
8. 乾いた布で背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

キーボード／機械式マウスのクリーニング

キーボードは本装置および周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF (POWERランプ消灯) になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で乾拭きしてください。
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほごりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本装置の電源がOFF (POWERランプ消灯) になっていることを確認する。

2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。

3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

汚れがひどいときはぬるま湯または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。

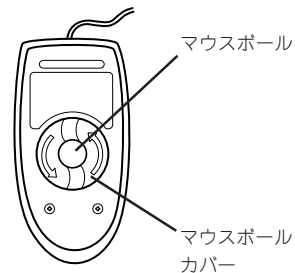
4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。

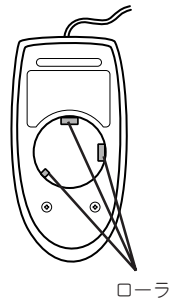
5. マウスボールをマウスの中に戻す。

手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。



マウス底面



CD-ROMのクリーニング

CD-ROMにほこりがついていたり、トレイにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレイ、CD-ROMのクリーニングを行います。

1. 本装置の電源がON (POWERランプ点灯) になっていることを確認する。
2. CD-ROMドライブ前面のオープン／クローズボタンを押す。
トレイがCD-ROMドライブから出てきます。
3. CD-ROMを軽く持ちながらトレイから取り出す。

🔑 重要

CD-ROMの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレイ上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

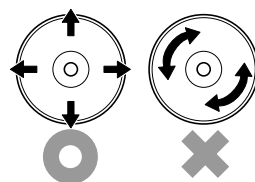
🔑 重要

CD-ROMドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. オープン／クローズボタンを押して(またはトレイを軽く押して)トレイをCD-ROMドライブに戻す。
6. CD-ROMの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

🔑 重要

CD-ROMは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、CD-ROM専用のクリーナであることを確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、本装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



システム診断

システム診断は本装置に対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を実行して本装置を診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本装置に取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクのチェック



システム診断を行う時は、必ず、本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響を及ぼす可能性があります。



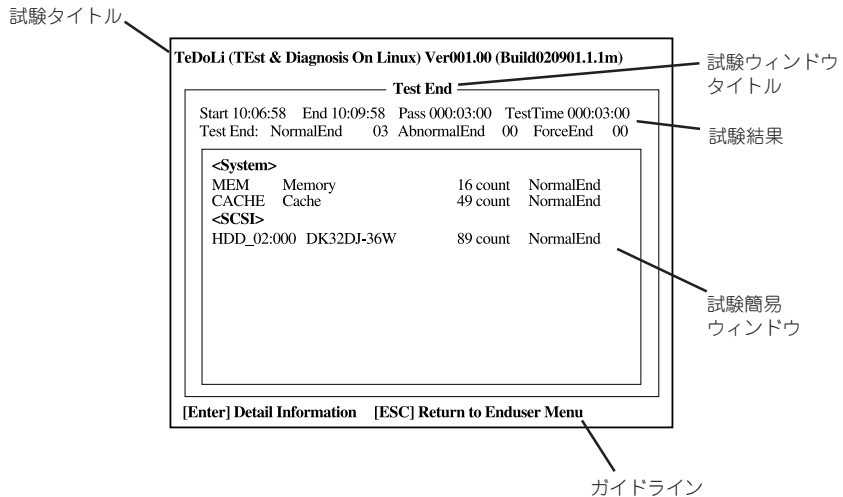
ハードディスクのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

次の手順でシステム診断を起動します。（本装置が運用中の場合はシャットダウンし、再起動できる状態にした後で手順1～11を行ってください。）

1. シャットダウン処理を行った後、本装置の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、本装置の電源をONにする。
4. EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
システムがCD-ROMから起動し、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
5. 「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の[ツール]を選択する。
6. 「ツールメニュー」の[システム診断]を選択する。
システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。

診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



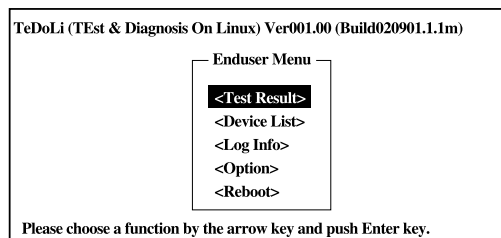
- 試験タイトル: 診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。
- 試験ウィンドウタイトル: 診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。
- 試験結果: 診断開始・終了・経過時間及び終了時の状態を表示します。
- ガイドライン: ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。
- 試験簡易ウィンドウ: 診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。

エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

以下のメインメニューを表示します。



- <Test Result>: 前述の診断終了時の画面を表示します。
- <Device List>: 接続されているデバイス一覧情報を表示します。
- <Log Info>: 試験ログを表示します。エラーメッセージをフロッピーディスクへ保存することができます。フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、<Save>を選択してください。
- <Option>: ログの出力先の変更します。
- <Reboot>: システムを再起動します。

8. 上記メインメニューで<Reboot>を選択する。
システムが再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。
9. EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。
10. システムの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
11. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。
12. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

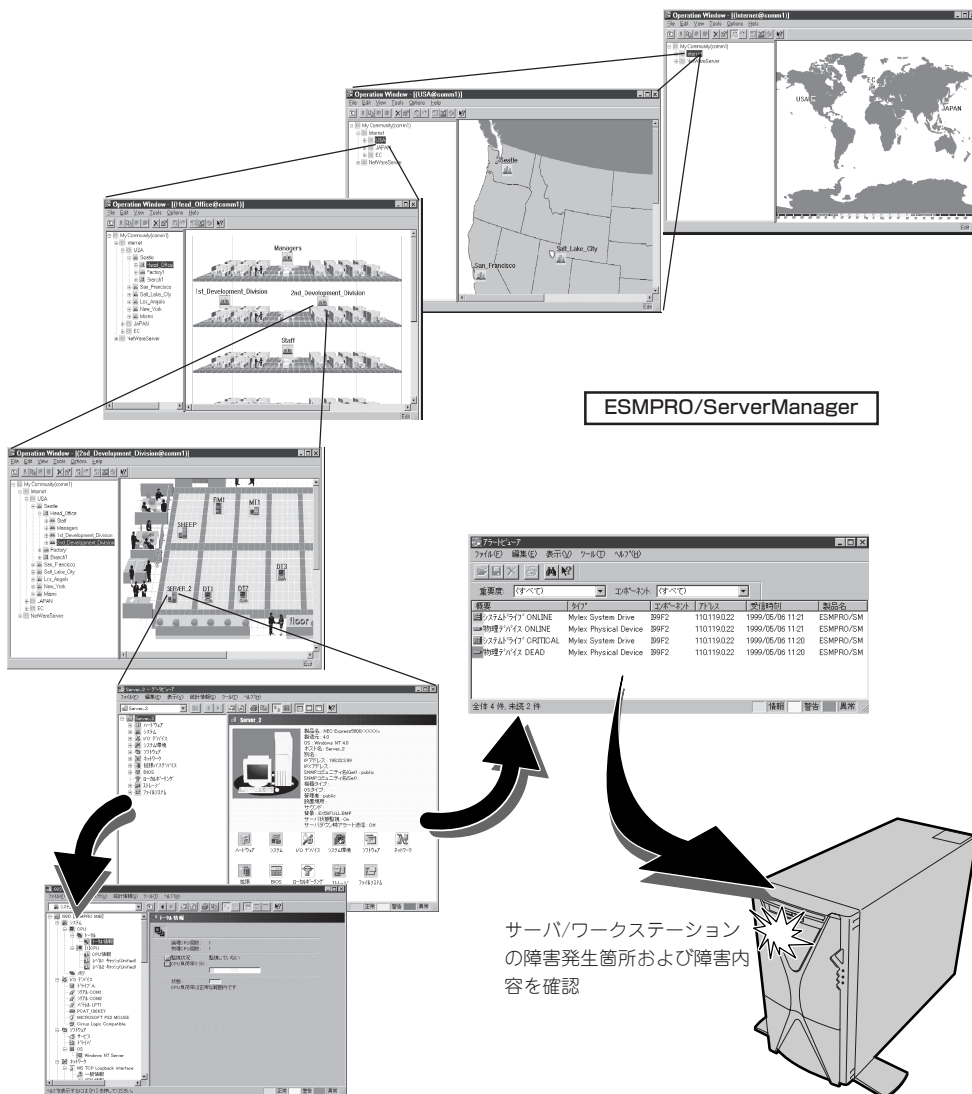
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

本装置になんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

本装置の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。

メモリの故障を示すメッセージ(例ではメモリ #2が故障した場合の表示)

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.00XX
:
CPU=Intel(R) Xeon Processor 2.40GHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING #2 DIMM group has been disabled.
:
Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

次ページ以降の表で、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法について説明します。

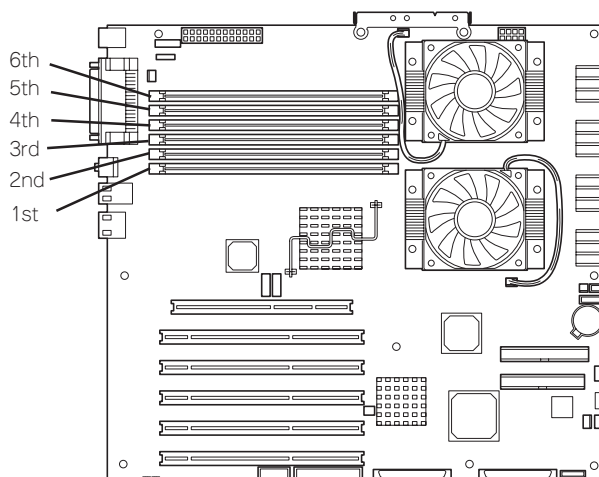


保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

エラーメッセージ	意味	対処方法
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクエラー	保守サービス会社に連絡してください。
0210 Stuck Key	キーボード接続エラー	キーボードを接続し直してください。
0211 Keyboard error	キーボードエラー	キーボードを接続し直してください。再起動してください。それでも直らない場合は保守サービスに連絡してください。
0212 Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラエラー	
0230 System RAM Failed at offset	システムRAMエラー。オフセットアドレス	保守サービス会社に連絡してください。
0231 Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMエラー。オフセットアドレス	
0232 Extended RAM Failed at address line	拡張RAMエラー。オフセットアドレス	
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP	システムのバッテリーがない。	保守サービス会社に連絡してください。コンピュータを再起動後、Setupを起動して設定し直してください。
0251 System CMOS checksum bad Default configuration used.	システムCMOSのチェックサムが正しくありません。	デフォルト値が設定されました。Setupを起動して、設定し直してください。
0260 System timer error	システムタイマーエラー	保守サービス会社に連絡してください。
0270 Real time clock error	リアルタイムクロックエラー	
0271 Check date and time settings	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	Setupを起動して、時刻を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
02B0 Diskette drive A error	フロッピーディスクAのエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
02D0 System cache error - Cache disabled	システムキャッシュエラー。	キャッシュを使用できません、保守サービス会社に連絡してください。
PCI System Error on Bus/Device/Function	バス／デバイス／ファンクションでPCIシステムエラーが発生した。	保守サービス会社に連絡してください。
PCI Parity Error on Bus/Device/Function	バス／デバイス／ファンクションでPCIパリティエラーが発生した。	

エラーメッセージ	意味	対処方法
0B20 NVRAM Cleared by jumper	CMOSクリアジャンパによりBIOS情報がクリアされました。	CMOSクリアジャンパを通常の位置に戻してください。setupを起動して設定しなおしてください。
0B28 Unsupported CPU detect on CPU Socket 1	サポートしていないCPUがCPU#1のソケットに取り付けられている。	保守サービス会社に連絡して本装置がサポートしているCPUと交換してください。
0B29 Unsupported CPU detect on CPU Socket 2	サポートしていないCPUがCPU#2のソケットに取り付けられている。	
0B30 Fan 1 Alarm occurred.	装置背面（リア）ファンの異常。	
0B31 Fan 2 Alarm occurred.	装置前面（フロント）ファンの異常。	FANの目詰まりをチェックして、ホコリが付着しているようであれば取り除いてください。異常が見当たらない場合や清掃しても直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B32 CPU Fan 1 Alarm occurred.	CPU1に搭載したファンの異常。	
0B33 CPU Fan 2 Alarm occurred.	CPU2に搭載したファンの異常。	
0B50 1st CPU with error taken off line.	CPU#1でエラーを検出したため、CPU#1を縮退した。	CPUが縮退しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B51 2nd CPU with error taken off line.	CPU#2でエラーを検出したため、CPU#2を縮退した。	
0B5F Forced to use CPU with error.	CPUエラーを検出した。	すべてのCPUでエラーを検出したため、強制的に起動しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B60～0B65 WARNING-nnnDIMM group has been disabled.	DIMM番号(nnn)でメモリエラーを検出した。メモリが縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。

* 0B60～0B65のDIMM番号「nnn」とメモリボード上のソケットは次のように対応しています。



エラーメッセージ	意味	対処方法
0B6F ERROR-DIMM group with error is enabled.	メモリエラーを検出した。	全てのメモリでエラーを検出したため、強制的に起動しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B70 The error occurred during temperature sensor reading.	温度異常を検出する途中にエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
0B71 System Temperature out of the range	温度異常を検出した。	一度電源をOFFにして、各FANの目詰まりをチェックして、ホコリが付着しているようであれば取り除いてください。異常が見当たらない場合や清掃しても直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B74 The error occurred during voltage sensor reading	電圧を検出中にエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
0B75 System Voltage out of the range	システムの電圧に異常を検出した。	
0B78 The error occurred during fan sensor reading	FANセンサのリード中にエラーを検出した。	
0BB0 SMBIOS - SROM data read error.	SROMデータを正しく読めなかった。	再起動してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0BB1 SMBIOS - SROM data checksum bad.	SROMデータのチェックサムが正しくない。	保守サービス会社に連絡してください。
Expansion ROM not initialized	PCIカードの拡張ROMが初期化されない。	PCIボードの取り付け状態を確認してください。または、SETUPを起動し、[Advanced]メニューの[Option ROM]で、起動に必要なPCIボードに対する設定を無効にしてください。
Invalid System Configuration Data	システムを構成しているデータが破壊されています。	保守サービス会社に連絡してください。
System Configuratio Data Read error	システムを構成しているデータのリードエラー。	
Resource Conflict	PCIカードのリソースが正しくマッピングされていない。	
System Configuration Data Write Error	システムを構成しているデータのライトエラー。	
WARNING: IRQ not configured	PCIカードの割り込みが正しく設定されていない。	

Windows XP/Windows 2000のエラーメッセージ

OSの起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると本装置は自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(25ページの「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」参照)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのファイルの提供を依頼する場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーして保守員に渡せるよう準備しておいてください。

重要 STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

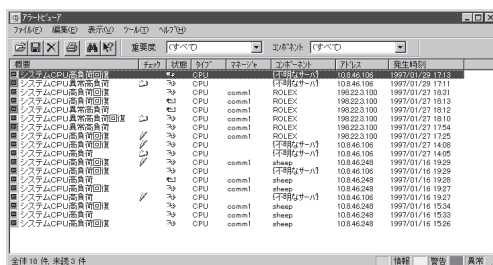
チェック このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentを本装置へ、ESMPRO/ServerManagerを管理PCへインストールしておく、本装置に何らかの障害が起きたときに管理PCを通じて障害の内容を知ることができます。

ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプが、別売の「ESMPROシステム構築ガイド」を参照してください。



名前	ソース	カテゴリ	イベント ID	説明	日時
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 17:11
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 18:31
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 18:13
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 18:12
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 18:10
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 17:54
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 17:25
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 14:08
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/27 14:05
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 19:29
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 19:29
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 19:27
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 15:34
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 15:33
システムCPU使用率超過	CPU	comm1	1016	システムCPU使用率超過	1997/01/16 15:26

トラブルシューティング

本装置が思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本装置について



電源がONにならない

☐ 電源が本装置に正しく供給されていますか？

- 電源コードが本装置の電源規格に合ったコンセント(またはUPS)に接続されていることを確認してください。
- 本装置に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていないことを確認してください。
- 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
- UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていることおよびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくは、UPSの説明書を参照してください。

また、本装置のBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。

<確認するメニュー:「System Hardware」→「AC-LINK」→「Power On」>

☐ POWER/SLEEPスイッチを押しましたか？

- 本装置前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押して電源をON(POWERランプ点灯)にしてください。



画面が出ない・ビープ音が鳴る

☐ DIMMが確実に実装されていますか？

- 同一ペア内に異なった仕様のDIMMが実装されていないか確認してください。DIMMの仕様については97ページの「DIMM」を参照してください。

☐ メモリを搭載していますか？

- 最低2枚のDIMMが搭載されていないと動作しません。

☐ グラフィックスアクセラレータ(AGPボード)は正しく取り付けられていますか？また、ケーブルが確実に接続されていますか？

- AGPボードの取り付け状態およびケーブルの接続状態を確認してください。



メモリ容量が実際より少なく表示される

- BIOSセットアップユーティリティやPOST画面でのメモリカウント、オペレーティングシステム上での表示は、搭載しているオプションボードによって総物理メモリより少なく表示されることがありますが、故障ではありません。ただし、メモリを増設した後の表示が前と変わらなかったり、ふだんよりも急に少なく表示されていたりした場合は、DIMMの故障が考えられます。



POSTが終わらない

- ☐ 大容量のメモリを搭載していますか？
→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- ☐ 本装置の起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- ☐ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
→ NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。



内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

- ☐ ケーブルは正しく接続されていますか？
→ インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本装置の順に電源をONにします。
- ☐ ドライバをインストールしていますか？
→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ PCIデバイスを接続している場合は、本装置のBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。(通常は特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。)
 - <確認するメニュー:「Advanced」→「PCI Device」、「Option ROM」>
- シリアルポート、パラレルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
 - <確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」>
- ☐ ジャンパは正しく設定されていますか？
→ 接続されているデバイスにはジャンパ設定が必要なものがありますので添付の説明書を参考に、ジャンパを設定してください。



キーボードやマウスが正しく機能しない

- ☐ ケーブルは正しく接続されていますか？
 - 本装置背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
 - 本装置の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません(USBデバイスを除く)。いったん本装置の電源をOFFにしてから正しく接続してください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
 - 本装置のBIOSセットアップユーティリティでマウスを無効にすることができます。また、マウスが使用する割り込み(IRQ12)をPCIデバイスに割り当てていると正しく動作しない場合があります。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
 - ＜確認するメニュー：「Advanced」→「Peripheral Configuration」→「Mouse」
「Advanced」→「PCI Device」
- ☐ ドライバをインストールしていますか？
 - 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- ☐ Secure Modelになっていませんか？
 - Secure Mode中は、キーボード・マウスは機能しません。SETUPで設定したユーザーパスワードを入力してSecure Modeを解除してください。



フロッピーディスクにアクセスできない

- ☐ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？
 - フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。
- ☐ 書き込み禁止にしていますか？
 - フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。
- ☐ フォーマットしていますか？
 - フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピーディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付の説明書を参照してください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
 - 本装置のBIOSセットアップユーティリティでフロッピーディスクドライブを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
 - ＜確認するメニュー：「Main」→「Diskette A」
「Advanced」→「Peripheral Configuration」→「Diskette Controller」
「Security」→「Diskette Write」、「Diskette Access」>

- ☐ 1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか？
 - 本装置では1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。1.44MBフォーマットか720KBフォーマットのフロッピーディスクを使用してください。
- ☐ 「Diskette Access」が「Supervisor」に設定されていませんか？
 - 起動時にUser Passwordを入力するとフロッピーディスクへのアクセスができません。
 - BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Security」→「Diskette Access」→「User」>



CD-ROMにアクセスできない

- ☐ CD-ROMドライブのトレイに確実にセットしていますか？
 - トレーに確実にセットされていることを確認してください。
- ☐ 本装置で利用できるCD-ROMですか？
 - Macintosh専用のCD-ROMは使用できません。



ハードディスクにアクセスできない

- ☐ 本装置で利用できるハードディスクですか？
 - NECが指定する機器を使用してください。
- ☐ ハードディスクは正しく取り付けられていますか？
 - ハードディスクの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。また、ハードディスクを固定するネジはハードディスクに添付されているネジを使用してください。
- ☐ ハードディスクの設定を間違えていませんか？
 - SCSI IDやSCSIの終端などハードディスクの設定が必要です。詳しくはハードディスクに添付の説明書を参照してください。内蔵SCSIケーブルの端のコネクタでSCSIは終端されます。ハードディスクで終端の設定をする必要はありません。



SCSI機器(内蔵・外付け)にアクセスできない

- ☐ 本装置で利用できるSCSI機器ですか？
 - NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ☐ SCSI機器は正しく取り付けられていますか？
 - SCSI機器の取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。接続できる台数は、5.25インチデバイスベイに搭載してるデバイスを含め4台まで(外付けデバイスは2台まで)です。また、外付けデバイスを接続するケーブルは、ケーブル長の合計が1.5m以内でなければなりません。Narrowデバイスは内蔵のみ接続可能です。

- SCSI機器の設定を間違えていませんか？
 - 外付けのSCSI機器を接続しないときは、背面のSCSIコネクタに添付の終端コネクタを取り付けてください(内蔵の5.25インチデバイスのSCSI終端は添付の終端コネクタで設定されます)。また、5.25インチデバイスのSCSI IDが重複していないことを確認してください。
 - 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です(5.25インチデバイスのSCSI IDと重複していないことも確認してください)。詳しくはSCSI機器に添付の説明書を参照してください。
- SCSIコントローラの設定を間違えていませんか？
 - SCSI機器を接続している場合は、SCSI BIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください(141ページ参照)。オプションのSCSIコントローラボードを搭載している場合はオプションのボードに添付の説明書を参照してください。

Windowsについて



Windows 2000からWindows XPへアップグレードしたシステムの場合、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース：SNMP

分類：なし

種類：エラー

イベント：1102

説明：拡張エージェントdll C:\WINNT\System32\acsmib.dllが足りないかまたは正しく構成されていないので、SNMPサービスはそれを無視しています。詳細な情報は、<http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp>の[ヘルプとサポートセンター]を参照してください。

ソース：SNMP

分類：なし

種類：エラー

イベント：1102

説明：拡張エージェントdll C:\WINNT\System32\iasperf.dllが足りないかまたは正しく構成されていないので、SNMPサービスはそれを無視しています。詳細な情報は、<http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp>の[ヘルプとサポートセンター]を参照してください。

ソース：SNMP

分類：なし

種類：情報

イベント：1001

説明：SNMPサービスは正常に開始されました。

→ システムの起動時に、上記ログが登録されますが、システムの動作上問題ありません。



Windows 2000からWindows XPへアップグレード時や、システムのアップデート時、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース：NetBT

分類：なし

種類：エラー

イベント：4311

説明：ドライバデバイスが作成されなかったため初期化に失敗しました。詳細な情報は、<http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp>の[ヘルプとサポートセンター]を参照してください。

→ 再起動後に登録されていなければ問題ありません。登録されている場合は、お問い合わせの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。



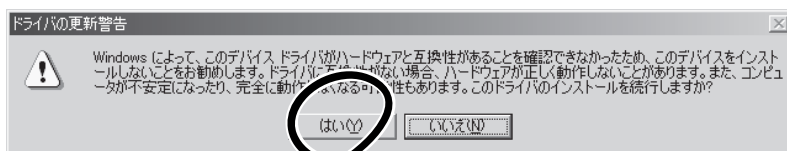
Windows 2000のインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

- 複数のハードディスクを接続したり、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？
 - OSをインストールするハードディスク以外のハードディスクをいったん取り外した状態でインストールしてください。
 - ディスクアレイコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールしてください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレイのコンフィギュレーションユーティリティを使用して追加作成してください。



Windows 2000のインストール後に、デバイスマネージャで日本語106/109キーボードが英語101/102キーボードと認識される

- デバイスマネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。
 1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
 2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
 3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード
 4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
 5. 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語PS/2キーボード(106/109キー)を選択して[次へ]をクリックする。
 6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
 7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



Windows 2000を運用中、イベントビューアに下記内容のWinMgmtの警告が登録される場合がある

イベントID: 37

説明: ライブラリ内で不明な問題が発生したため、WMI ADAP は"ファイル名"パフォーマンスライブラリを読み込むことができませんでした。また0x0Service Pack 3 CD-ROMを使用した場合は、CD-ROMドライブから抜き取ってください。

イベントID: 41

説明: Collect 関数で時間違反があったため、ADAPは"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。または009 サブキーで値が見つからなかったため、WMI ADAPはパフォーマンスライブラリ"ファイル名"のオブジェクトインデックス"インデックス番号"を作成できませんでした。

イベントID: 61

説明: open関数で時間違反があったため、WMI ADAPは"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。

→ カウンタの問題またはWMI(Windows Management Instrumentation)パフォーマンスライブラリdredgerの無効な正の戻り値が原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



Windows 2000を運用中、イベントビューアに下記内容のLoadPerfの警告が登録される場合がある

イベントID: 2000

説明: インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォーマンスが改善されます。

→ WMI(Windows Management Instrumentation)が表示されたパフォーマンスカウンタを求めることが原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



Windows 2000を運用中、イベントビューアに下記内容のrasctrsの警告が登録される場合がある

イベントID: 2001

説明: インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォーマンスが改善されます。

→ Systemroot¥system32¥driversフォルダ配下にNDISWAN.SYSが存在するかどうか確認してください。システムの再起動後に本エラーが登録されていない場合は、運用上は特に問題はありません。

？ ブルー画面(STOPエラー画面)で電源OFFできない

- 一度押しでは電源OFFはできません。
 - ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン:電源スイッチを4秒以上押し続ける)を行ってください。



プロセッサが異常高温になると、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムはリセット状態となるため、POWER/SLEEPスイッチによる電源制御ができなくなります。電源コードを抜いて、電源をOFFにし、運用環境(周囲温度など)を確認した後、しばらくしてから再度、電源コードを接続し、電源をONする必要があります。なお、プロセッサが冷却されるまでの間(通常であれば5分程度)は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります。

？ STOPエラー発生時「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

- コントロールパネルの[システム]でSTOPエラーの時に「自動的に再起動する」よう設定しても、自動的に再起動しない場合があります。
 - 再起動しない場合は、手動で再起動してください。また、この現象が起きると画面に青い縦線が入るなど、画面の表示が乱れることがあります。



「自動的に再起動する」の設定は、使用しているOSによって異なります。

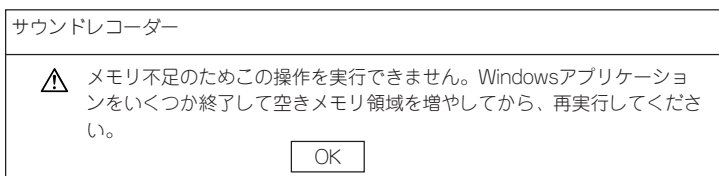
Windows XPの場合

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→[起動と回復]で設定します。

Windows 2000の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細]→[起動/回復]で設定します。

？ サウンドレコーダーを使用すると以下のエラーが発生する場合があります



- 搭載したメモリが2GBを超えていませんか？
 - 本機能は2GBを超えるメモリを搭載していると、使用することができません。実装メモリを2GB以下にして、サウンドレコーダーを実行してください。

？ OSを起動できない

- フロッピーディスクをセットしていませんか？
 - フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？
 - EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。
- OSが破損していませんか？
 - 修復プロセスを使って修復を試してください(239ページ)。



OSの動作が不安定

- ☐ システムのアップデートを行いましたか？
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。21ページを参照してシステムをアップデートしてください。



スリープ機能が働かない

- ☐ オプションボードを実装していますか？
→ オプションボードが実装されている時はオプションボードがスリープ機能に対応しているかご確認ください。



ネットワーク上で認識されない

- ☐ ケーブルを接続していますか？
→ 本装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
＜確認するメニュー：「Advanced」→「Peripheral Configuration」→「LAN Controller」＞
- ☐ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
→ 本装置専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。
- ☐ 転送速度の設定を間違えていませんか？
→ 本装置に標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1Gbps、100Mbps、および10Mbpsのネットワークで使用することができます。この転送速度の切り替え、または設定はOS上から接続しているHubに合わせてください。
- ☐ システムのアップデートをしましたか？
→ オペレーティングシステムをインストールした後にネットワークドライバをインストールした場合は、システムのアップデートをしなければ正しく機能しません(21ページ)。

CD-RWについて



ドライブ内で媒体の回転音が大さい

- ☐ いったん、ディスクを取り出し、再度セットし直してください。
→ ドライブのオートバランス機構を再度機能させることで、回転音をおさえます。



CD-RWが認識されない

- ☐ IDEケーブルが正しく接続されていますか？
→ IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。
- ☐ 本体のBIOSにCD-RWが正しく設定されていますか？
→ 本体のBIOSの設定を確認してください。
- ☐ ジャンパが正しく設定されていますか？
→ CD-RWのジャンパが「マスタ」に設定されているか確認してください。
- ☐ 電源が入っていますか？
→ 本体の電源を入れた時、CD-RWのピジーLEDが点灯することを確認してください。点灯しない場合は、電源が接続されていない可能性があります。電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ☐ 添付のライティングソフトを使用していますか？
→ 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。



動作しない

- ☐ 電源が入っていますか？
→ 電源コネクタに電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ☐ IDEケーブルが正しく接続されていますか？
→ IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。



書き込みができない

- ☐ 添付のライティングソフトを使用していますか？
→ 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。
- ☐ 推奨以外のメディアを使用していませんか？
→ 弊社推奨もしくは弊社指定のメディアを使用してください。
- ☐ メディアが裏表に入っていないですか？
→ メディアのトップレーベルを上にして入れ直してください。
- ☐ ハードディスクの容量が不足していませんか？
→ 書き込む方式によってハードディスクの使用量は異なりますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- ☐ 電源が入っていますか？
→ 電源コネクタに電源コードが正しく接続されているか確認してください。

- IDEケーブルが正しく接続されていますか？
 - IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。



書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する

- ネットワーク環境下での書き込みを行ったり、マウスやウィンドウ、スクリーンセーバを動かしたり、他のアプリケーションが立ち上がっていて、コンピュータのリソースが不足していませんか？
 - ネットワークからログオフして、書き込みを行ってください。
 - スクリーンセーバ、省電力モードを解除してください。
 - ライティングソフト以外のアプリケーションを終了してください。
- ハードディスクの容量が不足していませんか？
 - 書き込む方式によってハードディスクの使用量は違いますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- メディアに傷、品質不良はありませんか？
 - メディアに傷、ほこり、品質不良がある可能性があります。メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みメディアを使用してください。



CD-RWディスクのデータを消去したのに書かれた跡がある

- 問題ではありません。
 - CD-RWディスクは一度書き込みがされると、消去しても書き込んだ跡があります。



高速倍速での書き込みができない

- メディアが対応している倍速ですか？
 - デバイスがサポートしている倍速にあったメディアを使用してください。
- バッファアンダーランが起きてませんか？
 - 「書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する」を参照してください。
- メディアに傷や品質不良はありませんか？
 - メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みのメディアをご使用ください。
- ライティングソフトがCD-RWに対応していますか？
 - 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。



メディアに追記できない

- ライティングソフトが違っていませんか？
 - 先に書き込んだライティングソフトと、今回使用するライティングソフトが異なると、書き込めないことがあります(ライティングソフト互換性による)。書き込むライティングソフトは、なるべく同じものをご使用ください。
- 追記データに対して、空き容量が足りていますか？
 - 1枚のメディアに書き込める情報量は、TOCおよびリードイン、リードアウトのデータを含めて650MB(74分タイプ)です。追記するデータに対して、空き容量が不足する場合は、新たに別のメディアを使用してください。
- 他社のCD-R/RW装置で記録したメディアを使用していませんか？
 - 本装置で書き込んだメディアを使用してください。

- ディスクアットワンスで書き込まれたメディアまたはトラックアットワンスで書き込み後、CDクローズされたメディアを使用していませんか？
→ 以前の書き込み時に、追記ができないように設定されています。新たに新規のメディアを使用してください。



2回以上書き込んだメディアの前のセッションが読み出しできない

- ライティングソフトで前のセッションが読み出されていますか？
→ ライティングソフトで前のセッションが読み出されていない状態で記録されたメディアは、原則として最後のセッションしか読み出しできません。
2回目以降に書き込むときは、前のセッションを読み出し、マルチセッションとして書き込んでください。前のセッションを読み出さないと、以前に書いたセッションが無効となります。
前回書き込んだデータのセッションが閉じられており、追記されたセッションが読めなくなっています。新たにメディアにデータを書き直してください。
- メディアに不良がありませんか？
→ メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- 音楽CDをセットしていませんか？
→ 音楽CDはコンピュータのデータと違いますので、セッションの読み出しを実行する時に音楽CDが挿入されているとエラーメッセージがでてしまいます。
- メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
→ トレイからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。



読み出し時に異音が発生する

- メディアに不良がありませんか？
→ 他のメディアを使用してください。
- メディアの表面にシールを貼っていませんか？
→ 表面のシールをはがしてください。はがすときは、メディアに傷が付かないように注意してください。



リードエラー(読み出しエラー)が発生する

- メディアに不良がありませんか？
→ メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- 音楽CDをセットしていませんか？
→ 音楽CDにはデータが入っていないため、エラーメッセージが表示されます。データCDを入れてください。
- メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
→ トレイからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。
- パケットライトで書き込まれていませんか？
→ パケットライトで書き込まれたデータを読むためには専用のソフトウェアが必要となります。



フォトCDに関して ～フォトCDが見られない～



フォトCDに関して ～画像を読み込んでいるときに、エラーが発生する～



フォトCDに関して ～マルチセッションであるのに、最初のセッションしか読めない～

- ☐ デバイスドライバがフォトCD対応になっていますか？
 - デバイスドライバメーカーに確認し、対応した最新のドライバを入手してください。
- ☐ フォトCDディスクは欠陥のないものですか？
 - 他のフォトCDディスクを読み込んでみて同様の問題が発生しないか確認してください。他のフォトCDディスクが読めた場合は、そのメディアに欠陥があることが考えられます。



外部スピーカから音楽CDの音が出ない

- ☐ サウンドボードが正常に機能していますか？
 - 本装置のオーディオ出力コネクタにアンプ付き外部スピーカを接続し、音楽CDをセットして再生してください。音が出ればドライブは正常です。本装置と外部スピーカがオーディオケーブルで正しく接続されているか確認してください。本装置側のケーブルがオーディオ入力コネクタ(ラインイン)に接続されていると、サウンド機能は正常に機能しません。オーディオ出力コネクタに正しく接続してください。サウンドドライバがインストールされているか確認してください。



本装置から出る音のレベルが低い

- ☐ サウンドボードと本装置のオーディオケーブルが正しく接続されていますか？
 - オーディオミキサのマスター、CD、ラインのレベルが正しいか確認してください。
 - いくつかのオーディオミキサがインストールされている場合でも、上記のそれぞれのレベルが正しいかを確認してください。



ディスクトレイが出ない

- ☐ ディスクトレイにメディアが正しくセットされていますか？
 - エマーゲンシーイジェクトホールにエマーゲンシースティックを差して、ディスクトレイを出してください。
- ☐ ソフトウェアでイジェクトロックされていませんか？
 - Windows環境をお使いの場合は、CD-ROMのプロパティでイジェクトロックされていないか確認してください。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERから本装置を起動できない場合は、次の点について確認してください。

- POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？
→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。
- BIOSのセットアップを間違えていませんか？
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
＜確認するメニュー: 「Boot」＞

EXPRESSBUILDERを実行中、何らかの障害が発生すると、メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDERの対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不帰発生メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクが接続されていないか、ハードディスクが異常です。ハードディスクが正常に接続されていることを確認してください。
マザーボード上に装置固有情報が存在しません。 オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」を使用してバックアップした情報をリストアするか、情報を書き込んでください。 この作業は保守員以外には行わないでください。 オフライン保守ユーティリティを起動しますか？	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDERが装置固有情報を見つけれない場合に 표시됩니다。

この他にもシステムの再セットアップやシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

シームレスセットアップについて

<Windows XPのみ>



自動インストール中に他のパーティションが起動された、あるいは他のパーティションを起動しようとして中断した

→ 「既存パーティションを使用する」を指定してインストールしたときに流用するパーティション中にActiveなパーティションが存在した場合に発生する場合があります。流用パーティション以外のActiveなパーティションは非Active化してください。



イベントビューアに下記内容のEventSystemの警告が登録される

説明: COM+イベントシステムは、サブスクリプション
{.....}でConnectionMadeメソッドでの開始に失敗しました。
サブスクライバはHRESULT 80004001を返しました。

→ シャットダウンおよび再起動をした場合に登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



イベントビューアに下記内容のUserenvの警告が登録される

説明: ログオフ時にアプリケーションまたはサービスがレジストリを
まだ使用している間にWindowsはユーザーXXXXX¥xxxxのレジストリを
保存しました。
ユーザーのレジストリによって使用されたメモリは解放されていません。
レジストリは使用されなくなったときにアンロードされます。
ユーザーアカウントとしてサービスを実行していることが原因と
考えられます。LocalServiceまたはNetworkServiceアカウントで
サービスを構成してみてください。

説明: クラスレジストリファイルをアンロードできません。
ほかのアプリケーションまたはサービスによって使用されています。
ファイルが使用されなくなった後にアンロードされます。
ユーザーのレジストリによって使用されたメモリは解放されていません。
レジストリは使用されなくなったときにアンロードされます。
ユーザーアカウントとしてサービスを実行していることが原因と
考えられます。LocalServiceまたはNetworkServiceアカウントで
サービスを構成してみてください。

→ ネットワーク上の共有フォルダに接続し、エクスプローラを起動したままシャットダウンなどをした場合に登録されることがあります。エクスプローラを閉じてからシャットダウンなどをしてください。

<共通>



指定したパーティションサイズよりも小さい容量のハードディスクを使用してインストールしようとしたときに以下のメッセージが表示された

指定されたパーティションサイズが確保できなかったため、
確保できる最大サイズでパーティションを作成しました。

OK

→ 異常ではありません。<Enter>キーを押してインストールを続けてください。



CD-ROMからファイルをコピー中に次のメッセージが表示された

xxxxx : Not Ready xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxZ
xxxxx(A), xxxxx(R), xxxxx(F)

→ <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示されるときは、CD-ROMを入れ直してから<R>キーを押してください。それでもうまくいかない場合は、シームレスセットアップをはじめからやり直してください。



自動インストールが中断し、セットアップ情報を入力するように求められた

→ 設定したセットアップ情報に間違いがあります。メッセージに従って正しい値を入力してください。インストールをキャンセルする必要はありません。セットアップの最後のリポートで再度、<Enter>キーの入力を要求されることがあります。



「コンピュータの役割」画面で[終了]が表示される

→ ここで[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

<既定値>

ネットワークプロトコルの設定

プロトコル: TCP/IP [DHCP指定]

サービス: Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
の選択

クライアント: Microsoftネットワーク用クライアント

コンポーネント: SNMP、IIS (Windows XP/Windows 2000
Professional除く)

アプリケーション: ESMPRO/ServerAgent

エクスプレス通報サービス

GAM Server (Mylex DACを接続時)

GAM Client (Mylex DACを接続時)

Array Recovery Tool (Mylex DACを接続時)

自動クリーンアップツール (Mylex DACを接続時)

Power Console Plus (LSILogic DACを接続時)

* DAC: ディスクアレイコントローラ



EXPRESSBUILDER上で使用者名と会社名を入力する時、日本語入力ができない

→ OSを起動後、使用者名と会社名を再設定する画面がポップアップされ、日本語入力が可能となります。再設定を行ってください。



EXPRESSBUILDER上でパラメータに日本語の入力ができない

→ ExpressPicnicで作成したセットアップパラメータファイルを使用するかOS起動後コントロールパネルから再設定してください。

* 使用者名と会社名についてはOS起動後に表示される画面で入力してください。



「コンピュータの役割」画面で「終了」が表示されない

→ 作成済みのセットアップ情報ファイルをロードした場合は表示されません。

→ 「終了」は、最初に「コンピュータの役割」画面に移ったときにのみ表示されます。一度でも「コンピュータの役割」から先の画面に進むと「戻る」を使用して、「コンピュータの役割」画面に戻っても、「終了」は表示されません。



パーティションサイズを8000MBと指定したのに、起動後に確認してみると7553MBしか確保されていない

☐ IDEディスクにOSをインストールしていませんか？

→ ディスクによっては、8000MBを指定しても最大で7553MBしか作成されないことがあります。



「プログラムの終了…CSC Notifications Window」ダイアログボックスに「このプログラムは応答していません」というメッセージが表示される場合がある

☐ 問題ありません。

→ 自動的にシャットダウンが行われ、システムのリカバリが続行されます。



パーティションサイズに大きな値を指定したのに、実際にシステムを起動してみると、4095MBでシステムパーティションが作成されている

→ 「パーティションサイズ」で実領域以上の値を設定していませんか？全領域(保守領域を除く)を1パーティションで作成したい場合は「全領域」を設定するようにしてください。



ディスプレイの解像度として指定したものと違う解像度でシステムが起動した

→ ディスプレイの解像度は、指定された設定が使用できなかった場合、それに近い設定かまたはドライバのデフォルト値が使用されます。



プロダクトキーを入力するタイミングがない

→ バックアップCD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトIDの入力は必要ありません。バックアップCD-ROM以外のOS CD-ROMを使用している場合は、CD-ROMをCD-ROMドライブにセットした時に、CDキーの入力画面が表示されます。



間違ったプロダクトID/CDキーを入力してしまった

→ 間違ったプロダクトID/CDキーを入力しても、自動インストールは開始します。しかし、自動インストール中にストップ、再入力を促されます。また、この場合、自動インストール中のGUIセットアップ終了のリポート時に入力要求が発生します。これら2回の入力を行えば、システムのセットアップには問題はありません。

？ ログオン時に「デジタル署名が見つかりませんでした」ダイアログボックスに以下のメッセージが表示される場合がある

Microsoft デジタル署名によって、ソフトウェアが Windows 上でテストされ、その後変更されていないことが保証されます。

□ 問題ありません。

→ [はい] をクリックし、メッセージに従って続行してください。

？ ネットワークアダプタを複数枚接続していないのにプロトコルの詳細設定がすべてデフォルト設定になっている。(例: TCP/IP の場合 IP アドレス設定したのに DHCP 設定になっているなど)

→ 複数のプロトコルを設定していませんか？

この場合複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト設定になってしまいます。OS 起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

？ ネットワークアダプタの詳細設定ができない

→ シームレスセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。システムの起動後、コントロールパネルから設定してください。

？ シームレスセットアップで設定しなかったネットワークアダプタの設定が行われてシステムが起動された

→ システムは認識したネットワークアダプタは既定値に設定してインストールします。設定の変更は、システムの起動後、コントロールパネルから行えます。また、シームレスセットアップで設定したが、実際に接続されていなかった場合、アダプタのセットアップは行われませんが、プロトコルのインストールだけは行われます。

？ 複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したのに、どのアダプタもすべてのプロトコルが設定されている

→ 仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコルすべてが使用できるように設定されます。シームレスセットアップで設定できないものは、すべて既定値になります。

？ 複数枚ネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IP プロトコルの詳細設定がすべて DHCP を使用するになっている

→ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定がすべて既定値になることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。

？ 以下のメッセージが表示され、インストールが中断する

Windows ブートローダをインストールできませんでした。
C: ドライブがフォーマットされているか、ドライブが
損傷していないか確認してください。

→ 追加アプリケーションのインストールを指定している場合、この現象が発生する場合があります。この現象が発生した場合、追加アプリケーションを指定しないでインストールしてください。

マスターコントロールメニューについて



オンラインドキュメントが読めない

- ☐ HTMLブラウザが正しくインストールされていますか？
 - オンラインドキュメントは、HTML文書です。あらかじめHTMLブラウザ (Internet Explorer 5.x以降) をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。
- ☐ HTMLファイルの関連付けは正しいですか？
 - オンラインドキュメントはCD-ROM上のローカルファイルをアクセスします。Internet ExplorerとNetscape Communicatorが共存しているとHTML文書の拡張子 (.htm、.html) がブラウザに正しく関連付けられていないことがあります。次の手順で (Internet Explorer 5.0の場合) 関連付けを設定してください。
 1. Internet Explorerを起動する。
 2. Internet Explorerのメニューから、[ツール]—[インターネットオプション] を選択する。
 3. [プログラム]タブをクリックし、[Webの設定のリセット]をクリックする。
 4. 確認のダイアログボックスが現れるので[はい]をクリックする。
- ☐ Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか？
 - オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader (Version 4.05以上) をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、[ソフトウェアのセットアップ] の[Adobe Acrobat Reader]を選択してください (インストール後、Acrobat Readerを起動して使用許諾契約書に同意してからご使用ください)。



オンラインドキュメントの画像が見にくい

- ☐ 使用しているディスプレイは、256色以上の表示になっていますか？
 - ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。



マスターコントロールメニューが表示されない

- ☐ ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降またはWindows 95以降ですか？
 - CD-ROMのAutorun機能は、Windows XP/2000、Windows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。
- ☐ <Shift>キーを押していませんか？
 - <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。
- ☐ システムの状態は問題ありませんか？
 - システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。CD-ROMの¥M¥C¥1ST.EXEをエクスプローラなどから実行してください。

 メニュー項目がグレーアウトになっている

- ご使用の環境は正しいですか？
 - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

 "This program requires Windows Japanese version" というメッセージを表示する

- ご使用の環境は正しいですか？
 - 本製品は、日本語版Windows専用です。オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、プログラムは起動できませんので、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

ExpressPicnicについて

 セットアップ情報の設定でExpressPicnicウィンドウのビットマップが正しく表示されない(Trekkingコマンド使用時)

- ディスプレイの設定の色数が256色未満の場合はビットマップが正しく表示されていませんが、セットアップ情報は正しく表示できます。

 セットアップ情報の設定でディスプレイの解像度が設定できない

- インストール時、解像度は各ドライバの既定値で設定されます。システムのインストール終了後、コントロールパネルを使用して設定し直してください。

 セットアップ情報の設定で複数枚のネットワークボードを接続しているが、ネットワークアダプタごとにTCP/IPの設定ができない

- DHCP設定でインストールしてください。仮のIP構成にする場合は、いったんDHCP設定でインストールしてから、インストール終了後にコントロールパネルから設定し直してください。

 Windows XPで「稼働機からの情報採取」機能が使用できない

- Windows XPではこれらの機能をサポートしていません。

ESMPROについて

 ESMPROで思うように監視できない・動作しない

- オンラインドキュメントの「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」、もしくは「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」をご覧ください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取のご依頼あったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

イベントログの採取

本装置に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

Windows XPの場合

Windows XPを使用している本装置に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[パフォーマンスとメンテナンス]→[管理ツール]→[イベントビューア]の順に選択する。
クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[管理ツール]をクリックしてください。
3. 採取するログの種類を選択する。
[アプリケーションログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システムログ]にはWindows XPのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。
4. [操作]メニューの[一覧のエクスポート]コマンドをクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブファイルの名前を入力する。
6. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。

詳細についてはWindows XPのオンラインヘルプを参照してください。

Windows 2000の場合

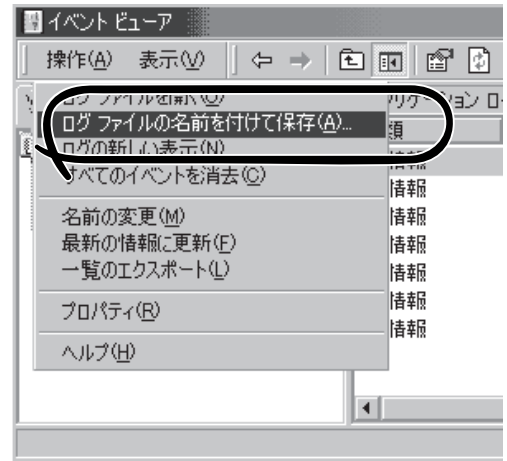
Windows 2000を使用している本装置に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

1. コントロールパネルから[管理ツール]→[イベントビューア]をクリックする。

2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindows 2000のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。



詳細についてはWindows 2000のオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

本装置のハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

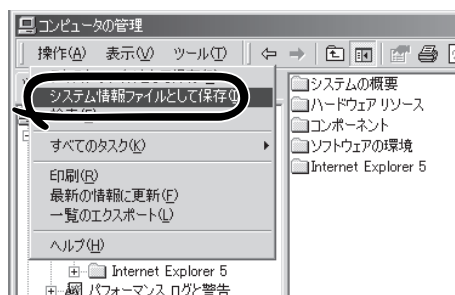
Windows XPの場合

本装置のハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。

1. スタートメニューから[ヘルプとサポート]を選択する。
[ヘルプとサポート]ウィンドウが表示されます。
2. [ヘルプとサポート]ウィンドウのツールバー[サポート]をクリックし、左側に表示される[関連項目]内の[システムの詳細情報]をクリックする。
3. 右側に表示される[システムの詳細情報を表示する (Msinfo32.exe)]をクリックする。
[システムの詳細情報]が表示されます。
4. ツールバーの[ファイル]→[エクスポート]をクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. [保存]をクリックする。

Windows 2000の場合

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
3. [システムツール]→[システム情報]をクリックする。
4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. [保存]をクリックする。



ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは31ページの「ワトソン博士の設定」を参照してください。

メモリダンプの採取

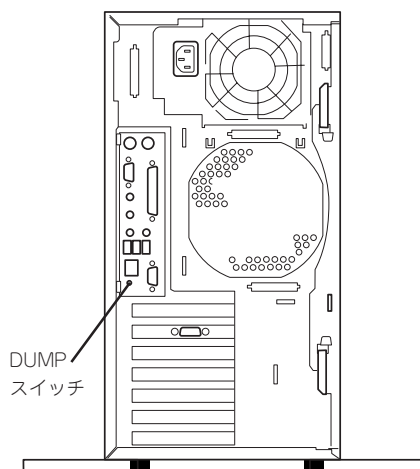
障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルにどのアプリケーションを使用して保存したかを示すアプリケーション名（「Windows2000 バックアップツール」や「ARCServe」など）を記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは25ページの「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可）をスイッチ穴から斜めに差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます（CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります）。



NVRAMの情報の採取

NVRAMの情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]－[ESMPRO ServerAgent]－[ESRASユーティリティ]を選ぶ。
[ESRASユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理]をクリックする。
[NVRAM管理]ダイアログボックスが表示されます。
3. [退避]タブをクリックする。
4. [退避対象ファイル名]グループの[本体HW]チェックボックスをチェックする。
5. 退避するファイル名と保存する場所を指定して、[退避]をクリックする。

システムの修復

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「バックアップCD-ROM」を使ってシステムを修復してください。



- システムの修復後、「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ(17ページ以降の説明)」、「システムのアップデート(21ページ)」を参照して必ず各種ドライバおよびシステムをアップデートしてください。
- ハードディスクが認識できない場合は、システムの修復はできません。
- OSの再インストールを行っている間にシステム修復ディスクを使ったシステムの修復をするかどうかを確認するメッセージが表示されます。システム修復ディスクではなく、ディスクの中の情報を使って修復してください。

修復手順 ～Windows XP～

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

修復手順 ～Windows 2000～

Windows 2000を使用している場合は、以下の手順でシステムの修復を行います。



Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER (フロッピーディスク)が必要となる場合があります。「ソフトウェア編」の「EXPRESSBUILDER」を参照して作成してください。「マスターコントロールメニュー(161ページ)」の「ソフトウェアのセットアップ」から表示されるメニューからも作成できます。

1. バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. コンピュータを再起動する。
3. 次のメッセージが表示されたら<F6>キーを押す。

Setup is inspecting your computer's hardware configuration

4. 次のメッセージが表示されたら<S>キーを押す

Windows 2000 Setup

Setup could not determine the type of one or more mass storage device installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

5. 次のメッセージが表示されたら、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

Please insert the disk labeled
manufacturer supplied hardware support disk
into Drive A:

* Please ENTER when ready.

6. [Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)] を選び、<Enter>キーを押す。
手順5の画面に戻ります。
7. SCSIアダプタのリストが表示されたら、以下のいずれかを選択し、<Enter>キーを押す。

<ディスクアレイコントローラ(N8103-52)の場合>

[Mylex AcceleRAID 160 Disk Array Controller]

<ディスクアレイコントローラ(N8103-80)の場合>

[MegaRAID SCSI 320-1 RAID Controller Driver]

8. 次のメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押す。

Setup will load support for the following mass storage device(s):

9. メッセージに従って操作する。
10. テキストベースのセットアップが始まったら、画面の指示に従って操作を進める。
11. <R>キーを押して修復オプションを選択する。
12. キーボードの種類を選択する。
13. 選択を求められたら、<R>キーを押してシステム修復処理を選択する。
14. 選択を求められたら、次のうちのどちらかを選択する。
- [手動修復](<M>キーを押す) 高度なユーザーがシステム管理者以外はこのオプションを選択しないでください。このオプションを使うと、システムファイル、パーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境の問題を修復することができます。
- [高速修復](<F>キーを押す) このオプションは使い方がとても簡単で、ユーザーは何もする必要はありません。このオプションを選択すると、システム修復ディスクプログラムが、システムファイル、システムディスクのパーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境(システムに複数のオペレーティングシステムがインストールされている場合)に関連した問題の修復を開始します。
15. 画面に表示される指示に従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面では、<L>キーを押す。

ディスクの検査後、システムは一度再起動されます。



システム修復ディスクを使用しない処理を行います。

16. 手順1～15を繰り返す。

修復処理が開始されます。

修復処理の間に、見つからないファイルや破損したファイルが、ハードディスク上C:\\$1386のファイルがシステムパーティションのsystemroot¥Repairフォルダのファイルに置き換えられます。こうして置き換えられたファイルは、セットアップ以降に行った構成の変更を一切反映していません。

17. 画面に表示される指示に従って操作する。

障害が検出されたファイルの名前を控えておくと、システムがどのように破損していたのかを診断するのに役立ちます。

18. 修復に成功した場合は処理を終了する。

コンピュータが問題なく再起動した場合は、置き換えられたファイルがハードディスクに正しくコピーされたことがわかります。

オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、本装置の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本装置に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。
- オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントから本装置へアクセスできなくなります。

オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティは次の方法で起動することができます。

オフライン保守ユーティリティは手動で起動することもできますが、障害発生時に自動起動させることもできます。

● EXPRESSBUILDERからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」から「ツール」→「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択するとCD-ROMディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● フロッピーディスクからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツール」→「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ 起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守ユーティリティが起動します。

● 手動起動(F4キー)

オフライン保守ユーティリティをインストール後、POST画面で<F4>キーを押すと、ハードディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● 手動起動(ESMPROからの操作)

ESMPRO/ServerAgentで「システム再起動後ただちにオフライン保守ユーティリティを起動する」に設定して再起動すると、ハードディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● 自動起動(OS運用中の障害)

OS動作中に致命的の障害が発生し、シャットダウン後、再起動すると自動的に起動します(あらかじめ、ESMPRO/ServerAgentで、「障害発生時、オフライン保守ユーティリティを起動する」に設定をしておく必要があります)。

オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます(起動方法により、実行できる機能は異なります)。

- **HWログの編集表示**

HWログの編集表示では「HWログの表示／テキストファイルへの出力」、「HWログ領域の初期化」といった本装置のハードウェアに関する情報の確認や操作を行えます。

- **SWログの編集表示**

SWログの編集表示では「SWログの表示／テキストファイルへの出力」、「SWログのクリア」、「SWログ領域の初期化／制御情報の表示」といった本装置のソフトウェアに関するエラー情報の確認や操作を行えます。

- **HWイベントログの編集表示**

HWイベントログの編集表示では「HWイベントログの表示／テキストファイルへの出力」、「HWイベントログ領域の初期化／制御情報の表示」といった本装置のハードウェア上で起こった情報の確認を行えます。

- **BIOSセットアップ情報の表示**

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

- **システム情報の表示**

プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **システム情報の管理**

装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、32ページで説明しています。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

- **各種ユーティリティの起動**

EXPRESSBUILDERから保守用パーティションにインストールされた以下のユーティリティを起動することができます。

- ー システム診断ユーティリティ
- ー 保守用パーティションの更新

移動と保管

本装置を移動・保管するときは次の手順に従ってください。

 注意	
	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。 ● 一人で持ち上げない ● フロントマスクに手をかけて運ばない ● 指定以外の場所に設置・保管しない ● 電源コードを接続したままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない ● 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない



- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを内蔵している場合はハードディスクに衝撃を与えないように注意して本装置を移動させてください。

1. フロッピーディスク、CD-ROMをセットしている場合は本装置から取り出す。
2. 本装置の電源をOFF (POWERランプ消灯)にする。
3. 本装置の電源プラグをコンセントから抜く。
4. 本装置に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 本装置に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

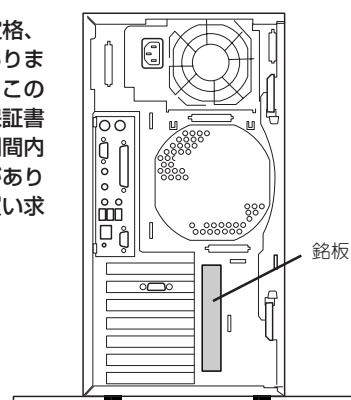
保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。



- NEC製以外(サードパーティ)の製品、NECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた本装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本体に製品の形式、SERIAL No.(製造番号)、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。お買い求めの販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の製造番号と保証書の保証番号が一致していませんと、装置が保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、お買い求めの販売店にご連絡ください。



修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

- ① 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- ② 「障害時の対処(207ページ)」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
- ③ 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
- ④ 市販のウィルス検出プログラムなどで本装置をチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際に本装置のランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。

なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



本製品は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報*
- ☐ 本体・周辺機器の記録

* 234ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスはNECの保守サービス会社およびNECが認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

契約保守サービスでは、お客様に合わせてさまざまな保守サービスを用意しております。詳しくはNECのWEBサイト「8番街(<http://nec8.com>)」の「サポート情報」を参照してください。



- サービスを受けるためには事前の契約が必要です。
- サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。

情報サービスについて

Express5800シリーズに関するお問い合わせは「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800(代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

<http://nec8.com/>

『NEC 8番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

<http://club.express.nec.co.jp/>

『Club Express』：「Club Express会員」への登録をご案内しております。Express5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスの詳細をご紹介します。

<http://www.fielding.co.jp/>

NECフィールドینگ(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。